

講義コード	1N010012
講義名	コミュニケーション学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1308
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 狩野 真理	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

狩野 真理〔臨床心理士・公認心理師・看護師〕

目的

人間関係において基礎となる言語的・非言語的コミュニケーションについて学び、ロールプレイを通して実践的なコミュニケーションスキルを身につけることを目的とする。さらに、コミュニケーションについての一般的な知識のみでなく、カウンセリングの考え方や技法も取り入れることによって、コミュニケーションスキルの向上を目指す。

到達目標

1. 言語的・非言語的コミュニケーションについて正しく理解することができる。
2. 医療従事者・社会人としての基本的なコミュニケーションスキルについて理解し、実践できるようになる。
3. 学んだ知識と技術を日常生活の中で役立て、さらなるスキルアップができるよう努める。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

1. オリエンテーション：コミュニケーションについて
2. コミュニケーションの基本 (1)：印象
3. コミュニケーションの基本 (2)：ジョイニング
4. コミュニケーションの基本 (3)：聴き方
5. コミュニケーションの基本 (4)：訊き方
6. コミュニケーションの基本 (5)：伝え方
7. コンプリメント
8. リフレーミング
9. アサーショントレーニング
10. 患者とのコミュニケーション場面を想定 (1)
11. 患者とのコミュニケーション場面を想定 (2)
12. 患者とのコミュニケーション場面を想定 (3)
13. 患者の家族とのコミュニケーション場面を想定 (1)
14. 患者の家族とのコミュニケーション場面を想定 (2)
15. 学習のまとめ、および目標達成度の確認

成績の評価

期末レポート70%・授業内小レポート30%

自己学習

講義・演習内容を日常生活の中で考え、実践してみてください。

履修上の注意

テーマに沿った内容のディスカッションとロールプレイを行います。積極的に取り組み、相互作用の中から多くのことを学び、身につけてください。
また、講義の最後に感想（質問を含む）など小レポートを書き、提出してもらいます。

テキスト

講義の資料として、適宜プリントを配布します。

参考資料

- 「基礎からステップアップ 看護コミュニケーション」（へるす出版）
- 「看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング」（医学書院）
- 「ナースのためのアサーション」（金子書房）

オフィスアワー

木曜日 12:30~13:00

講義コード	1N014013
講義名	スポーツと健康
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1209
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

目的

現代社会の発達は、快適な生活を私たちに与えてくれている反面、オーバーストレスや運動不足を引き起こしている。本講義では、ストレスや運動不足が肥満や動脈硬化などの生活習慣病の原因になること、また、日常生活や臨床の場で関わりの深い腰痛、高血圧、肥満などの成り立ちと運動との関わりについての知識を身につけることを目的とする。さらにスポーツはその実践方法によっては身体に悪影響を及ぼすことから、加齢とトレーナビリティ、スポーツ障害などを学び、基礎的な応急処置とその理論を習得する。

到達目標

健康や健康づくりを知り、実践できるようになる。
有酸素運動についての正しい知識を身につける。
スポーツによるけがと予防法を知る。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

1. スポーツとは、スポーツと健康、レクリエーションスポーツ
2. 健康の定義、健康を学ぶ意義、個人の健康と社会
3. ヘルスポモーション、健康づくり施策について
4. 日本における健康づくり施策について
5. 健康日本21（第二次）の説明①
6. 健康日本21（第二次）の説明②
7. 健康日本21（第二次）の説明③
8. 体力とは、行動関連体力と防衛関連体力、測れる体力
9. 体格指数、体脂肪の測定について、皮下脂肪厚法を学ぶ
10. 有酸素性運動と無酸素性運動、エネルギー供給機構と運動強度
11. 酸素摂取量、呼吸商、最大酸素摂取量、運動強度、心拍数、呼吸数
12. 有酸素運動に適した運動①（ウォーキング）健康づくりとウォーキング
13. 有酸素運動に適した運動②（ウォーキング）使用する筋、下肢への衝撃
14. 有酸素運動に適した運動②（ジョギング）健康づくりとジョギング
15. 肥満と運動

成績の評価

試験（100％）にて評価。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

学んだことを自分の生活の中で実践してみる。

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

参考資料

「健康運動実践指導者用テキスト」

健康・体力づくり事業財団

オフィスアワー

木曜の12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 401研究室 igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	1N030011
講義名	フィジカルアセスメント
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N1-3103
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中納 美智保	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

中納美智保〔看護師〕
 松下直子〔看護師〕
 堀本知春〔看護師〕

目的

看護は、さまざまな健康レベルにある人々の状況を客観的に査定し、看護ケアの評価を行う必要がある。この科目は対象者の状況を把握し判断するための技術としてバイタルサイン測定技術、フィジカルアセスメントの基礎的な知識と基本的な技術を学ぶ。

到達目標

1. フィジカルアセスメントの基礎的な知識が理解できる。
2. バイタルサインの基礎的な知識が理解できる。
3. バイタルサイン測定の基本的な技術が修得できる。
4. フィジカルアセスメントの基本的な技術が修得できる。
5. 対象者に関心を持ち、倫理に基づいた姿勢や行動について考えることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. フィジカルアセスメントの概要
2. バイタルサインの基礎的知識 1（体温）
3. バイタルサインの基礎的知識 2（呼吸）
4. バイタルサインの基礎的知識 3（脈拍）
5. バイタルサインの基礎的知識 4（血圧）
6. バイタルサイン測定の演習 1
7. 問診・インタビュー技術
8. バイタルサイン測定の演習 2
9. 脳神経系のフィジカルアセスメント
10. 消化器系のフィジカルアセスメント
11. フィジカルアセスメント演習 1
12. 心血管系のフィジカルアセスメント
13. フィジカルアセスメント演習 2
14. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント
15. フィジカルアセスメントのまとめ

成績の評価

定期試験90%・授業への取り組み度10%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」（医学書院）

参考資料

授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日 12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

5号館 C708研究室・nakano@kansai.ac.jp

講義コード	1N065012
講義名	英語表現法Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1302
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 仁志	指定なし

目的

- (1) チーム医療の担い手として、多様な人々と協調・協働する際に必要となるコミュニケーション・ツールとしての英語力を、会話を中心に実践を通して身につけること。
- (2) 医療現場での英語によるコミュニケーションを想定して、用語の習得を中心に医療英語の基礎を身につけること。

到達目標

- (1) 身の回りのことに関する英語の文章や表現を理解して活用できる。
- (2) 英語での日常会話に自信を持てるようになる。
- (3) 基本的な医学・医療関係の英語が理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

* 授業は英語で実施する。日本語厳禁！

1. Introducing yourself
2. Exchanging information
3. Talking about food
4. Ordering in a restaurant
5. Talking about a typical day
6. Talking about activities
7. Describing what you are wearing
8. Shopping for clothes
9. Talking about the weather
10. Making travel plans
11. Medical English: The external body
12. Medical English: The internal body
13. Medical English: Making appointments
14. Medical English: Asking for information
15. Course review and consolidation I

成績の評価

授業内評価とする。すなわち、授業への積極的な取り組み、授業の理解度、会話の流暢さ・正確さ、会話で使用する語彙力で評価する。

自己学習

0.5 ()

授業1コマにつき コマ 45分 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

Berlitz English for University Students, Book 1

Medical English, Book 1 (副教材)

講義コード	1N066013
講義名	英語表現法Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1303
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 仁志	指定なし

目的

- (1) チーム医療の担い手として、多様な人々と協調・協働する際に必要となるコミュニケーション・ツールとしての英語力を、会話を中心に実践を通して身につけること。
- (2) 医療現場での英語によるコミュニケーションを想定して、用語の習得を中心に医療英語の基礎を身につけること。

到達目標

- (1) 身の回りのことに関する英語の文章や表現を理解して活用できる。
- (2) 英語での日常会話に自信を持てるようになる。
- (3) 基本的な医学・医療関係の英語が理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

* 授業は英語で実施する。日本語厳禁！

1. Describing a place
2. Asking for and giving directions
3. Talking about your family
4. Describing people
5. Discussing clubs and organizations
6. Talking about past activities
7. Making plans to go out
8. Planning a party
9. Talking about health
10. Asking for and giving advice
11. Medical English: Describing medical history
12. Medical English: Describing injuries
13. Medical English: Talking about pathogens
14. Medical English: Review
15. Course review and consolidation II

成績の評価

授業内評価とする。すなわち、授業への積極的な取り組み、授業の理解度、会話の流暢さ・正確さ、会話で使用する語彙力で評価する。

自己学習

0.5 ()

授業1コマにつき コマ 45分 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

Berlitz English for University Students, Book 1

Medical English, Book 1 (副教材)

講義コード	1N085012
講義名	環境と健康
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N1-2301
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

和田幸子 平尾恭子 上坂智子

目的

「環境」(environment) は、その人を取り巻く状況と影響を及ぼすあらゆるものをさしている。「健康」(health) は、人間が生まれてから死に至るプロセスで、よりよい状態にあることとされている。
この講義では、人の生活を取りまく環境の現状や課題と健康への関連について学ぶ。

到達目標

- 1.心の健康（メンタルヘルス）に役立つ環境とのつきあい方が理解できる。
- 2.生活の場を形成するさまざまな環境（人・場所・社会資源）を理解することができる。
- 3.社会環境と健康の関係について考えることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／自己研鑽力

授業計画

- 1.環境とは 人間と環境との相互関係（和田）
- 2.現在社会の環境ストレス（和田）
- 3.上手なストレス対処法（和田）
- 4.その人らしい生活と環境（平尾）
- 5.障がい者から見た地域の環境（外部講師）
- 6.自分たちの生活環境を考える（平尾）
- 7.エンパワメントと人的環境（平尾）
- 8.社会環境と健康の関係（上坂）
- 9.健康の社会的決定要因への対策（上坂）
- 10.対策への技①（グループワーク）（上坂）
- 11.対策への技②（グループワーク）（上坂）（岩井）
- 12.生活の場としての地域（岩井）
- 13.バーチャルフィールドワーク：限界集落の生活を観察する（岩井）
- 14.グループワーク：環境が健康に及ぼす影響を考える（岩井）
- 15.まとめ（岩井）

成績の評価

レポート評価（100%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後にレポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

特になし

参考資料

講義内で適宜紹介する。

オフィスアワー

岩井：水曜日 12：20～13：00 メールで事前に連絡をいただければ他の日時でも調整可。

研究室・授業用E-mail

5号館7階C701研究室（岩井） iwai@kansai.ac.jp

講義コード	1N091011
講義名	看護学概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N1-3101
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 辻 幸代	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

辻幸代〔看護師・保健師〕

目的

この科目は、看護とは何か、看護職はどのような役割を果たしているかを学び、看護について考察する科目である。学修内容は、看護の歴史を概観し、看護の中心的概念である、「人間」「環境」「生活」「健康」をふまえて看護の定義について学ぶ。また、我が国の医療や看護の状況、看護の法制度について学び、看護の役割を理解する。

なお、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されている。看護における3つの職種（保健師・助産師・看護師）について学び、自己の特性をいかした職業を選択し、社会に貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身につくよう授業を展開する。

到達目標

1. 看護の歴史をふまえて、看護の定義や役割を説明する。
2. 看護学の視点から人間をどのように理解しているかを述べる。
3. 健康のとらえ方と我が国の健康状態の概要を述べる。
4. 看護提供の仕組みと法制度について述べる。
5. 授業を通して看護とは何かを考え、自分の意見を述べる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／自己研鑽力

授業計画

1. ガイダンスおよび看護の語源
2. ナイチンゲール以前の看護の歴史
3. ナイチンゲールと近代看護の確立
4. ナイチンゲールの理論
5. 看護の定義と役割、機能
6. 看護の対象である人間の理解（こころとからだ）
7. 看護の対象である人間の理解（発達と暮らし）
8. 健康の概念と生活
9. 日本の健康指標
10. 日本の医療制度
11. 看護専門職と法
12. サービスの視点でとらえる看護
13. 看護教育とキャリア
14. 看護と倫理

15. 看護の発展

成績の評価

定期試験90%と授業中に記載する振り返りシート10%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

1. 授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行う。
2. 予習は授業計画を参照して事前に該当するテキストをよく読んで受講する。
3. 復習は、授業で配布する資料を活用して理解を深める。

テキスト

「系統看護学講座・専門分野Ⅰ 看護学概論」(医学書院)

参考資料

1. 「看護覚え書」F.ナイチンゲール著, 湯楨ます他訳, 現代社
2. その他は授業中に紹介する。

オフィスアワー

水曜日(12:10~13:10)とする。

研究室・授業用E-mail

5号館7階C707研究室 s.tsuji@kansai.ac.jp

講義コード	1N092011
講義名	看護活動と理論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N1-3102
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 辻 幸代	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

辻幸代（看護師・保健師）

目的

人々の暮らしや価値観が多様化し、医療や看護を取り巻く状況も日々変化している中、看護は社会のニーズの応えるべく役割や機能が拡大している。一方、時代が変わり、世の中が変化しても普遍的な看護の本質が存在する。この科目は、先人たちが築いた看護の理論を学び、看護とは何かを自己に問うことで、看護の本質から看護実践のあり方を探求する。

到達目標

1. 看護理論とは何かを述べることができる。
2. 代表的な理論の概要について述べるができる。
3. 看護理論の歴史的変遷について述べるができる。
4. 看護理論の看護実践への活用について考えることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／自己研鑽力

授業計画

1. ガイダンス及び看護理論の定義
2. ヘンダーソンの理論の概要
3. ヘンダーソンの基本的看護の構成要素
4. ヘンダーソンの理論を用いた事例展開－1
5. ヘンダーソンの理論を用いた事例展開－2
6. ニードに関する理論
7. ウィーデンバックとその理論
8. プロセスレコードに関する理論
9. 人間関係に関する理論
10. オレム看護論（セルフケア不足について）
11. オレム看護論と実践への活用
12. ロイとその理論
13. ロイ看護論（適応様式の理解）
14. 役割理論
15. ベナー看護論

成績の評価

定期試験80%と課題レポート10%、授業中に記載する振り返りシート10%で評価する。なお、課

題レポートの内容は授業中に説明する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

1. 授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行う。
2. 授業で配布した資料を活用して復習し、それぞれの理論が実践でどのように活用されているかを理解する。

テキスト

1. 「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論」（医学書院）
2. 「看護の基本となるもの」（日本看護協会出版会）

参考資料

授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー

水曜日の（12：10～13：10）とする。

研究室・授業用E-mail

5号館7階C707研究室 s.tsuji@kansai.ac.jp

講義コード	1N101011
講義名	基礎看護学実習Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N1-3109
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中納 美智保	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

中納美智保〔看護師〕
 辻幸代〔看護師〕
 松下直子〔看護師〕
 堀本知春〔看護師〕

目的

基礎看護学実習Ⅰでは、病院の構造や機能を知り、対象者とのコミュニケーションを通して療養環境や生活行動および心理的变化を学ぶ。さらに看護活動の実際から看護師の役割と実践について理解し、看護チームの一員としての自覚を養うことを目的とする。なお、当該科目は「キャリア教育科目」に指定されている。

到達目標

1. 病院の構造・機能が理解できる。
2. 病棟の看護活動の特徴が理解できる。
3. 病院における看護活動の実際を知り、看護師の役割と実践が理解できる。
4. 対象者に基本的コミュニケーション技術を用いてコミュニケーションが実施できる。
5. コミュニケーションを通して対象者の生活の変化や気持ちが理解できる。
6. 看護チームの一員であることを自覚し、看護学生としてふさわしい行動や適切なコミュニケーションが実施できる。
7. 実習を通して看護への関心が高めることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

倫理に基づく行動力／コミュニケーション能力

授業計画

基礎看護学実習Ⅰの実習要項を参照

- ・12月または1月に行う。
- ・急性期病院・地域支援病院等の医療施設で行う。
- ・1グループ4～5名で構成する。
- ・実習時期や実習病院などの詳細については全体オリエンテーションで説明する。

成績の評価

実習記録を含め、実習評価表に基づいて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

実習最終日に実習評価に関する面談を行う。

自己学習

オリエンテーションで説明する。

テキスト

テキストは指定しない。

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館 C708研究室・nakano@kansai.ac.jp (中納)

講義コード	1N139013
講義名	国語表現法
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1301
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 南山 かおり	指定なし

目的

この講義は、コミュニケーション手段の一つとしての「文章表現」について論じる。文章による伝達は、今や現代社会において、大きな比重を占めるようになってきた。私たちは、日常生活の様々な場面で、日本語によって文章を綴ることを避けることはできない。それは、医療の現場においても、また同じである。カルテや紹介状の作成等、現場では常に正確で明瞭な文書の作成を要求されるだろう。

よって、講義の中では、自らの意図するところを的確に表現し、よりよい文章を書くためには何が必要か、身近な事例を通して考えてゆくことにする。

到達目標

的確な言語表現を実現するため、まずは、その表現媒体である「日本語」についての知識を深め、興味を喚起することを第一の目標とする。

さらにその上で、本当によい文章とは何か、正確に伝えるには何が必要か、について、自身の基準を持てるようになること、それが第二の目標である。

このことによって、実際の表現の場においても、常に慎重に自らの日本語を見つめ、より深いコミュニケーションを実現する力が身につくものとする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

1. ガイダンス — 授業の概要と成績評価について
2. Ⅰ. ことばに敏感になる — 1. 語感をつかむ
3. Ⅰ. ことばに敏感になる — 2. 「思う」と「考える」
4. Ⅰ. ことばに敏感になる — 3. 「ある」と「いる」
5. Ⅰ. ことばに敏感になる — 4. 語源を意識する
6. Ⅰ. ことばに敏感になる — 5. 派生語に注目する
7. Ⅰ. ことばに敏感になる — 6. 漢字と漢語
8. Ⅰ. ことばに敏感になる — 7. 漢語の特徴
9. Ⅱ. 文の構造を考える — 1. 「ハ」と「ガ」はどう違うか
10. Ⅱ. 文の構造を考える — 2. 「ハ」の働き
11. Ⅱ. 文の構造を考える — 3. 「ガ」の働き
12. Ⅱ. 文の構造を考える — 4. 「ハ」の文、「ガ」の文
13. Ⅲ. ことばは変化する — 1. ことばの"揺れ"を観察する
14. Ⅲ. ことばは変化する — 2. 「ら抜きことば」の問題
15. Ⅲ. ことばは変化する — 3. 情報の使い方

成績の評価

レポート提出50%・レポート内容40%・授業への取り組み度10%（授業中の小レポートにより評価）

※詳細については、授業の中で伝える。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

授業中に、レポートの解説を実施する。

自己学習

講義中に紹介した参考図書や、その他の日本語に関する本を読む等して、普段から「日本語に対する興味・理解を深める」こと。その上で、日常のコミュニケーションの場においても、自身の言語表現に常に気を配るよう努めること。

履修上の注意

課題のレポートは、求める条件を満たして、必ず提出すること。未提出の場合は単位を認定できない。

テキスト

毎回、授業時にプリントを配布。

参考資料

- | | |
|---------------|--------|
| 「日本語練習帳」 | （岩波新書） |
| 「日本語はおもしろい」 | （岩波新書） |
| 「私家版 日本語文法」 | （新潮文庫） |
| 「日本語はなぜ変化するか」 | （笠間書院） |
| 「全国アホ・バカ分布考」 | （新潮文庫） |

オフィスアワー

火曜日 12:30～13:00

講義コード	1N155012
講義名	社会福祉論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1205
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 駒井 博志	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

駒井 博志〔精神保健福祉士〕

目的

多くの可能性をもつことが可能な時代になったものの、一方では、様々な理由により社会的な支援(社会福祉)を必要とする人たち(当事者とする)も多く存在する。本講では、当事者の状況を理解するとともに当事者が利用できる法や制度、支援内容に関する理解、また、支援を実践する専門職とその方法についての理解を深めることを目的とする。なお、授業は授業計画に基づいて行う予定であるが、授業の進捗状況(学生の理解・関心等)によって変更することもある。

到達目標

当事者の状況や支援の枠組みや支援者、支援制度形成に至る背景・歴史について理解をし、仕事に従事した時の当事者理解を深めることができるようになること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／倫理に基づく行動力

授業計画

1. 社会福祉とは何か
2. 基本的枠組み
3. 同 上 その2
4. 最低生活保障と生活保護制度
5. 同 上 その2
6. 児童家庭と次世代育成の展開
7. 同 上 その2
8. 高齢者の生活と福祉
9. 同 上 その2
10. 障害者の支援と福祉
11. 同 上 その2
12. 実践と方法（ソーシャルワーク）の理解
13. 同 上 その2
14. 同 上 その3
15. まとめ

成績の評価

定期試験（80～70%） およびミニレポート等の授業への取り組み度（20～30%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

講義内容の理解を深めるため、参考図書①②を利用し予習と復習を行うこと。

1コマにつき2コマ相当（180分）の予習復習をすること。

履修上の注意

授業終了時に、当日の授業内容に関するミニレポートの提出を求めることがあるので、出席には留意すること。

テキスト

使用しない

参考資料

①「新社会福祉とは何か（第3版）」大久保秀子著・中央法規出版¥1,500(税別)－講義の理解をさらに深めたい人は購入すること。

②「社会福祉の動向」社会福祉の動向編集委員会・中央法規出版¥2,500(税別)

講義コード	1N157011
講義名	手話
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1309
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 岐津 素子	指定なし

目的

聴覚に障害がある人々が用いる言語である「手話」を実践的に学修します。この学修で聴覚障害者の理解を深め、言語を知り、コミュニケーションの枠を広げていくことが目的です。看護の場面でよく使用される手話についても学習します。

到達目標

手話であいさつ・自己紹介・簡単な会話ができ、聴覚障害者の社会資源についての知識も深めます。看護の現場で手話を使って会話ができるレベルを目指します。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

- 1.聴覚障害者の基礎知識 身振りを学びましょう
- 2.名前を紹介しましょう
- 3.家族を紹介しましょう
- 4.趣味について話しましょう
- 5.数字を使ってみましょう
- 6.家・道案内をしてみましょう
- 7.自己紹介のまとめ
- 8.看護場面でよく使う手話を使ってみましょう
- 9.一日の出来事を話しましょう
- 10.一か月の出来事を話しましょう
- 11.一年の出来事を話しましょう
- 12.災害に関する手話を使ってみましょう
- 13.話し合ってみましょう
- 14.実技テスト
- 15.まとめ

成績の評価

実技を伴う授業のため、授業中の学習態度も踏まえて評価する

試験40% 平常点20% 学習態度40%で評価する

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験実施後解説を行う

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと

復習では辞典を使い繰り返し手話を使うことが重要です

履修上の注意

実技による授業のため、授業態度を重視します

テキスト

「今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう！」

「わたしたちの手話 学習辞典I」

一般財団法人 全日本ろうあ連盟 発行

参考資料

その都度紹介する

講義コード	1N177012
講義名	心理学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1203
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀 節子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

亀 節子

目的

「人間とはどのような生命体であり、いかに感じ、行動し、生きているのか」という多岐にわたる心理学のテーマの中から、本講義では特に「感情」と「個性」をとりあげることによって、人間理解を深め、広い精神を養っていくことを目指す。

到達目標

人間理解をとおして、自らも周りの人もよくしていこうとする意欲を身につけること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／課題探究力

授業計画

1. I 「自らを知る」 & 「他者を知る」
2. II 主な心理学者の理論 (フロイト&アドラー)
3. II 主な心理学者の理論 (ユング、その他)
4. II 主な心理学者の理論 (マズロー、その他)
5. III 感情の心理学 (感情論の略史)
6. III 感情の心理学 (感情の科学)
7. III 感情の心理学 (情動と身体反応)
8. IV 痛みの心理学
9. V 運動指導の心理学的基礎 (感情と行動の適応的変化)
10. V 運動指導の心理学的基礎 (個別カウンセリング方法)
11. VI 遺伝と環境 (学習と記憶)
12. VI 遺伝と環境 (本能の役割)
13. VII コミュニケーション論 (親子の心理学)
14. VII コミュニケーション論 (イメージ論&交流分析)
15. VIII 古人 (いにしえびと) の人間観と 5 2 8 H z

成績の評価

定期試験（70％）および質疑応答における主体性や集中度（30％）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を学生から希望があるときに実施する。

自己学習

普段から、自らの人格に対する純な向上心を培っておくことが求められる。
1コマにつき2コマ相当（180分）の予習復習をすること。

履修上の注意

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考資料

講義の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

金曜日 16時から17時

研究室・授業用E-mail

管理棟2階 204研究室・skame@kansai.ac.jp

講義コード	1N187013
講義名	人体の機能Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護にいかす心と体のしくみ
科目ナンバリング	N1-2103
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榎葉 均	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

榎葉 均

目的

生理学（Physiology）は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問です。この学問は基礎医学の中で特に重要な科目の一つで、あらゆる西洋医学のベースとなる領域です。看護師においてもその重要性にかわりはありません。「人体の機能Ⅰ」では神経・筋・感覚・内分泌について講義します。

到達目標

教科書に記載されている事項について十分に理解し、「生理学・国家試験問題集」（授業中に配布）にある各設問の解説が出来る程度に知識を高めて下さい。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. 生理学とは
2. 神経の分類
3. 自律神経と末梢神経
4. 体性感覚
5. 特殊感覚
6. 骨格筋の構造
7. 筋収縮の仕組み
8. 中枢神経系
9. 脊髄神経と脳神経
10. 内分泌の仕組み
11. ホルモンの種類と働き
12. ホルモン分泌の調節
13. 代謝を調節するホルモン
14. 生殖と性ホルモン
15. 総括

成績の評価

試験100%にて評価します。ただし、授業の1／3を超えて欠席した者は受験する資格がありません。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

事前にテキストを十分に読み込んで、理解できない個所を抽出しておくことが重要です。授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行って下さい。

履修上の注意

1年生のうちに専門科目の基礎となる生理学の知識を十分に身につけておいて下さい。

テキスト

「ナーシング・グラフィカ 解剖生理学」 メディカ出版

参考資料

適宜、講義中に紹介します。

オフィスアワー

火曜日と水曜日の12:10～13:10。

研究室・授業用E-mail

管理棟2階206室

kashiba@kansai.ac.jp

講義コード	1N188013
講義名	人体の機能Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護にいかす心と体のしくみ
科目ナンバリング	N1-2104
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榎葉 均	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

榎葉 均

目的

生理学（Physiology）は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問です。この学問は基礎医学の中で特に重要な科目の一つで、あらゆる西洋医学のベースとなる領域です。看護師においてもその重要性にかわりはありません。「人体の機能Ⅱ」では循環・代謝・呼吸・排泄等について講義します。

到達目標

教科書に記載されている事項について十分に理解し、「生理学・国家試験問題集」（授業中に配布）にある各設問の解説が出来るように知識を高めて下さい。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. 血液の成分
2. 血球成分の働き
3. 血液凝固、線溶、血液型
4. 血液の循環
5. 心臓の働き
6. 呼吸運動
7. 呼吸の調節
8. 酸塩基平衡
9. 嚥下と消化
10. 吸収と排泄
11. 肝臓の働き
12. 腎臓の働き
13. 排尿の仕組み
14. 体温調節
15. 総括

成績の評価

試験100%で評価します。ただし、授業の1／3を超えて欠席した者は受験する資格がありません。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

事前にテキストを十分に読み込んで、理解できない個所を抽出しておくことが重要です。授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行って下さい。

履修上の注意

1年生のうちに専門科目の基礎となる生理学の知識を十分に身につけておいて下さい。

テキスト

「ナーシング・グラフィカ 解剖生理学」 メディカ出版

参考資料

適宜、講義中に紹介します。

オフィスアワー

火曜日と水曜日の12:10～13:10。

研究室・授業用E-mail

管理棟2階206室

kashiba@kansai.ac.jp

講義コード	1N194013
講義名	人体の構造Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護にいかす心と体のしくみ
科目ナンバリング	N1-2101
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 深澤 洋滋	指定なし

目的

看護師はヒトの健康に関わる専門職です。従って、ヒトの体に関しては広く専門的な知識を持つことが求められます。ヒトの体に関する知識のうち最初に学ばなければならない教科の1つが「人体の構造」です。ヒトの体を構成する単位である細胞や組織、その集まりである器官の構造を正しく理解することにより、何が正常であることを知ることが、ヒトの健康や病気を理解するうえで重要となるからです。この「人体の構造Ⅰ」では、人体を構成する最小単位である細胞から組織、器官、器官系についての概要を学び、さらに器官系のうち脈管系、骨格系、筋系の成り立ちについて深く学ぶことを目的とします。

到達目標

「人体の構造」では、同じような働きを担う器官の集まりである器官系ごとに、ヒトの体の構造を学習してゆきます。しかしながら、身体を構成する各器官系は、それぞれが完全に独立して機能しているのではなく、他の身体部位と複雑に連係を取りながら機能することにより1つの体としての調和を保っています。本講義は、人体を形作る構成要素に関する専門知識を習得することだけを目標とするのではなく、他の専門科目で学んだ知識と融合することにより、包括的に私たちの体をとらえることを目標とします。私たちの日常の「当たり前」が、いかに繊細な生命現象により維持されているかを知ること、そして「当たり前」がいかに当たり前でないかに気づいて欲しいと思います。その気づきが生命現象に対する畏敬の念を抱くことにつながり、生命に対する尊厳を育むきっかけとなるからです。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. 看護の土台となる解剖学
2. 細胞と組織①
3. 細胞と組織②
4. 皮膚と膜
5. 循環器系（心臓）
6. 循環器系（動脈）
7. 循環器系（静脈・リンパ管）
8. 骨格系（骨の概論）
9. 骨格系（体幹の骨）
10. 骨格系（体肢の骨）
11. 骨格系（関節の構造）
12. 筋系（筋の概論）
13. 筋系（筋の各論①）

14. 筋系 (筋の各論②)

15. 筋系 (筋の各論③)

成績の評価

試験は学期末試験 (100%) を実施します。学期末試験の結果((追再試験結果を含む))に基づいて評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

学期末試験終了後に模範解答を開示します。また、成績発表後に各試験答案を開示します。

自己学習

指定テキストである「人体の構造と機能①解剖生理学」を講義前に読み、講義内容についての予習を行って下さい。また、講義内容の理解を深めるためプリントを配付します。(講義1コマにつき45分相当の予習と復習を行ってください。) 講義内容については些細なことでも疑問が生じれば質問して下さい。

テキスト

『人体の構造と機能①解剖生理学』 (メディカ出版)

『イメージできる解剖生理学』 (メディカ出版)

参考資料

「日本人体解剖学」 (南山堂)

「プロメテウス解剖学コアアトラス」 (医学書院)

オフィスアワー

月曜日 12:30～13:00

事前に下記のメールアドレス等に連絡頂ければ、他の曜日・時間帯でも対応可能です。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 404研究室

fukazawa@kansai.ac.jp

講義コード	1N195013
講義名	人体の構造 II
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護にいかす心と体のしくみ
科目ナンバリング	N1-2102
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

目的

系統解剖学的区分に基づき、器管の形態や構造の特徴について理解できるようにテキストとオリジナル資料で講義します。人体の形態や構造の特徴について受講生が体系的かつ正確に理解することを目的とします。

到達目標

下記講義計画の内容について正確な理解を目指します。また講義後も自立学習が出来ることを目指します。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. 解剖学について／消化器系[総論]
2. 消化器系[口腔, 歯, 舌]
3. 消化器系[唾液腺, 咽頭, 食道]
4. 消化器系[胃, 小腸]
5. 消化器系[大腸, 肝臓]
6. 消化器系[胆嚢, 膵臓]／呼吸器系[外鼻, 鼻腔, 副鼻腔]
7. 呼吸器系[喉頭, 気管, 気管支, 肺]
8. 泌尿器系[腎, 尿管, 膀胱]
9. 泌尿器系[尿道]／生殖器系[男性, 女性]
10. 内分泌系[下垂体, 松果体, 甲状腺, 上皮小体, 副腎, 膵臓]
11. 神経系[総論, 延髄, 橋, 小脳, 中脳]
12. 神経系[間脳, 大脳, 脳室系]
13. 神経系[脊髄, 伝導路, 脳神経]
14. 神経系[自律神経]／感覚器系[視覚器]
15. 感覚器系[聴覚器, 皮膚]

成績の評価

筆記試験(100%)で評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

解剖学は人体の構造に関する知識を学習する科目であるため、各自、参考図書や模型、視聴覚教

材を利用した予習と復習が必要です。予習では必ずテキストを一読して用語の確認、復習では指導したノートの作り方に則り講義内容を整理しましょう。

履修上の注意

国家試験科目である。

テキスト

「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能(1)：解剖生理学」(メディカ出版)
資料としてプリントを配付します。

参考資料

「日本人体解剖学」(南山堂)
「プロメテウス解剖学 コア アトラス」(医学書院)

オフィスアワー

火・水・木曜日 12:10~12:40

研究室・授業用E-mail

診療研究棟4階407・tomura@kansai.ac.jp

講義コード	1N221013
講義名	生涯スポーツⅠ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1207
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 渡邊 俊哉	指定なし

目的

慢性的な運動不足による体力の低下は身体にゆがみを引き起こし、様々な疾病の原因となることが知られている。生涯スポーツⅠではこれらの疾病の予防・改善に有効なスポーツ・運動（太極拳、ストレッチング、体操などを含む）を適時実践するとともに、患者や高齢者を含めた地域の人々とのコミュニケーションを取る手段の一つともなるニュースポーツ(軽スポーツ)の指導法を含めた知識と技能を学ぶ。

到達目標

スポーツの意味を理解する。
 スポーツを楽しめるようになる。
 スポーツを生涯にわたって実践して行けるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

1. ガイダンス（生涯スポーツ及びニュースポーツ種目の特徴の説明）

※ 筆記用具を用意し指定された教室に私服で集合

第2週以降

「ニュースポーツ・運動の実践（ストレッチング、太極拳を含む）」

2. 太極拳の基本①
3. 太極拳の基本②
4. 太極拳の基本③
5. 動作名：予 備 式 （ユウベイシー）
6. 動作名：起 勢 （チーシー）
7. 動作名：手揮琵琶 （ショウホイピーパー）
8. 動作名：倒 卷 肱 （ダオジェンゴン）
9. 動作名：倒 卷 肱 （ダオジェンゴン）
10. 動作名：野馬分鬚 （イエマフェンゾン）
11. 動作名：野馬分鬚 （イエマフェンゾン）
12. 動作名：単 鞭 （ダンビエン）
13. 動作名：十 字 手 （シーズーショウ）
14. 動作名：収 勢 （ショウシー）
15. 総まとめ

成績の評価

実習科目である生涯スポーツⅠは実践することが重要であるため、技能の習得度、参加態度、積

極性等を評価する。また、実技試験を行い、必要に応じてレポート提出を求める。

自己学習

予習はいらぬが、復習として、動きの再確認を行うこと。

講義コード	1N222013
講義名	生涯スポーツⅡ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1208
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし
非常勤	竹尾 吉枝	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

五十嵐 純、竹尾 吉枝

目的

健康や体力の維持増進は、人生をより良く過ごす上で重要な問題である。しかし、今日の日常生活では身体活動の機会は減少し、体力の低下が進んでいる。一方、筋力の低下が進むと行動が制限されるばかりでなく、転倒による骨折の可能性、ひいては歩行困難を来す可能性が高まってくる。これらのことから生涯にわたって身体活動を行うことはより良い人生を送るために重要なことである。生涯スポーツⅡでは、体力の維持、増進に有効であるスポーツの実践を通して、心身の良好な状態を維持する知識と技能を学ぶとともに、スポーツの楽しみ方を身につける。

到達目標

スポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

【五十嵐担当】

1. ガイダンス
指定の場所に私服で集合
(持ち物：筆記用具)
2. グラウンドゴルフ①
3. グラウンドゴルフ②
4. フライングディスク①
5. フライングディスク②
6. フライングディスク③
7. フライングディスク④
8. 卓球の基礎①
9. 卓球の基礎②
10. 卓球の基礎③
11. シングルの試合
12. ダブルスの試合
13. 実技試験
14. ミニバレー①

【竹尾担当】

1. ガイダンス
ホールに運動のできる服装で集合
(持ち物：筆記用具、上履き)
2. 器具を使わない簡易体力測定1-1
3. 器具を使わない簡易体力測定1-2
4. エアロビックダンス2-1
5. エアロビックダンス2-2
6. 姿勢評価とコンディショニング3-1
7. 姿勢評価とコンディショニング3-2
8. ピラティス4-1
9. ピラティス4-2
10. チェアエクササイズ5-1
11. チェアエクササイズ5-2
12. ダンスパフォーマンスの実際6-1
13. ダンスパフォーマンスの実際6-2
14. ダンスパフォーマンスの実際6-3

※天候等により、授業内容を変更し体育館を使用することがある。

成績の評価

学習到達度50%・参加態度50%にて評価

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポート等を開示する。

自己学習

予習はいらないが、復習として、動きの再確認を行うこと。
授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

オフィスアワー

木曜の12:30～13:00（五十嵐）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 401研究室 igarashi@kansai.ac.jp（五十嵐）
info@genki-kyokai.com（竹尾）

講義コード	1N226013
講義名	生命のしくみ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1102
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 山崎 尚	指定なし

目的

言うまでもなく人間は生物である。ヒトが生物である以上、生命を維持するための仕組みは他の生物と共通している。この授業では、そういった生命の維持に必要な様々な仕組みを理解することを目的とする。細胞、生体高分子、遺伝子、代謝、恒常性の維持、性遺体防御の仕組み、生命の誕生と進化、など内容は多岐に渡るがヒトを理解する上で必要な知識を整理しつつ概観していく。

到達目標

到達目標

1. 生体内で起こる代謝の原理を理解している。
2. 糖質、脂質がどのような分子であるかを理解している。
3. 糖質がどのように吸収され、体内でどのように利用されるかを理解している。
4. 脂質がどのように体内を循環し、どのように利用されるかを理解している。
5. 真核細胞の構造と機能を理解している。
6. DNAの構造を理解して、遺伝子との関係を理解している。
7. DNAとタンパク質の関係を理解し、タンパク質の生体内での働きを説明できる。
8. 細胞分裂、細胞死など細胞の様々な働きを理解している。
9. 生体防御の仕組みについて、特に自然免疫と獲得免疫のつながりを理解している。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／課題探究力

授業計画

- 第1回：糖質の種類と性質
- 第2回：糖からエネルギーを得る仕組み
- 第3回：脂質の構造と性質
- 第4回：脂質の輸送と代謝、ビタミンとミネラルのはたらき
- 第5回：細胞の構造と機能
- 第6回：DNAの構造とはたらき
- 第7回：遺伝子とは何か～タンパク質との関係
- 第8回：細胞内外の情報伝達
- 第9回：細胞分裂の仕組みと制御
- 第10回：発生と分化
- 第11回：細胞のストレス応答機構
- 第12回：免疫システムのしくみ（1）：自然免疫と獲得免疫
- 第13回：免疫システムのしくみ（2）：免疫に関連する様々な現象
- 第14回：再生医療とは何か：ES細胞とiPS細胞

第15回：全体の復習（＊）

＊授業の進行が遅れた場合は、通常の授業を行う。

成績の評価

毎授業時に課するミニツツペーパーの提出を「授業への取り組み度」とする。評価は、定期試験80%、授業への取り組み度を20%とし、その合計で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき合計60分程度の予習、復習を以下を参考に行うこと。

予習：授業前に教科書の該当する部分を読む。

復習：授業後には教科書、ノートを見直し、不明な点がないか確認する。。

テキスト

大学で学ぶ 身近な生物学 吉村成弘 著 羊土社

参考資料

アメリカ版大学生物学の教科書第1巻～第5巻 講談社ブルーバックス

はじめての生理学 上・下 講談社ブルーバックス

エッセンシャル細胞生物学原書第4版 南江堂

オフィスアワー

毎週木曜日 授業の前後に質問して欲しい。また、e-メールによる質問は以下のアドレスにて受け付ける。

研究室・授業用E-mail

非常勤講師控室 hi-yamasaki@hyo-med.ac.jp

講義コード	1N229013
講義名	生命の化学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1104
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大西 基代	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

大西 基代

目的

生化学とは、生命現象を化学的に知ろうという学問です。この授業では、生化学の入門として、生体がどのような物質でつくられ、それらがどのような意味を持っているのかが理解できる事を目的とする。

到達目標

生体がどのような化合物で成り立っているのかが説明できることを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／課題探究力

授業計画

1. 総論(生命現象と生化学, 生体の構成成分)
2. 糖質の構造(単糖類)
3. 糖質の構造(二糖類と多糖類)
4. 糖質の構造と機能(グルコースの誘導體)
5. 脂質の構造(分類)
6. 脂質の構造と機能
7. アミノ酸の構造と機能
8. タンパク質の構造と機能
9. 核酸・ヌクレオチド
10. 水・無機質
11. 血液と尿
12. ホルモン
13. ビタミンの種類と機能
14. 酵素と疾患
15. まとめ

成績の評価

定期試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

『人体と構造と機能^[2]「生化学」』三輪一智ら著（医学書院）

参考資料

『生化学きほんノート』浅賀宏昭著（南山堂）

『「イラスト」生化学入門（栄養素の旅）』相原英孝・大森正英著（東京教学社）

『図解よくわかる生化学』中島邦夫著（南山堂）

『コメディカルの生化学』石原英子編集（廣川書店）

オフィスアワー

月曜日12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

管理棟2階209研究室・onisi@kansai.ac.jp

講義コード	1N230014
講義名	生命倫理
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1201
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 池田 裕明	指定なし
非常勤	矢本 希夫	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

矢本 希夫、池田 裕明

目的

生命倫理という言葉の歴史は比較的浅く、英語のbioethicsが初めて使われたのは1970年頃である。生命倫理とは、近年の生命科学と医療技術の画期的発展により、生命と医療に関して生じてきた様々な倫理的、社会的問題について議論し、研究することを目的とするもので、医療系の学生にとって学ぶべき必須の科目である。

到達目標

生命倫理の領域は、医療従事者と患者・一般市民とが医療の在り方について対等の立場で論議しあう場であるので、将来、医療人として、生命の尊厳を守る立場に相応しい素養を身に付けることを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／倫理に基づく行動力

授業計画

オムニバス形式

- 第一講 生命倫理の歴史と今日的課題
- 第二講 医療情報と個人情報保護
- 第三講 インフォームド・コンセントとその法理
- 第四講 医学研究と倫理—不正行為、利益相反
- 第五講 ヒト組織・細胞等の取り扱い—社会的、法的、倫理的問題
- 第六講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その1) —死と終末期医療
- 第七講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その2) —安楽死と尊厳死
- 第八講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その3) —臓器移植と脳死
- 第九講 「先端医療技術と倫理」 (その1) —遺伝子診断と遺伝カウンセリング
- 第十講 「先端医療技術と倫理」 (その2) —遺伝子操作と遺伝子治療

(池田)

- 第十一講 出生をめぐる倫理問題 (その1) —着床前診断と胚選別
- 第十二講 出生をめぐる倫理問題 (その2) —人工妊娠中絶と出生前診断
- 第十三講 出生をめぐる倫理問題 (その3) —生殖補助医療技術
- 第十四講 出生をめぐる倫理問題 (その4) —新生児医療

第十五講 出生をめぐる倫理問題（その5）—その他
（矢本）

成績の評価

定期試験、2人で分担出題（多肢選択問題、文章題等）にて行う。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

問題提起に対してよく考え、質問には自分の考えを積極的に述べること。

テキスト

特に指定はしない。講義プリント等による。

参考資料

「生命倫理と医療」（金芳堂）、「生命倫理への招待」（金芳堂）、「学生と考える生命倫理」（ナカニシヤ出版）、「看護学生のための倫理学」（金芳堂）、「医学生のための生命倫理」（丸善出版）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階305研究室（池田）

講義コード	1N310013
講義名	物質と自然のしくみ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1103
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 井本 泰彦	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

井本 泰彦

目的

医療のみならず我々の日常生活の中で無意識のうちに物理の原理・法則を利用している場合が多くある。したがって、これらを物理学の基本に基づいて整理すると広い範囲で合理的な対応が容易になり、将来の生活に極めて有用になる。

当講義では日常に見られる物理現象や医療に関係する物理現象を例として取り上げ物理学の法則性を理解するとともに基礎知識を身につけることを目的としている。

看護に関係する事項に重点をおいて、数式による扱いを最小限にして物理学を基礎から解説するので、高等学校で理解不足を感じた人や物理を履修しなかった人は是非受講を望む。

到達目標

あらゆる物理現象がその法則に基づいて起こっていることを理解し、法則に従って起こりうる現象を予測して適切な判断ができる能力と看護技術に積極的に活用できる力を身につけたい。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／課題探究力

授業計画

1. 物理量と単位、等速直線運動
2. 等加速度運動
3. 力と加速度 運動の法則①
4. 運動の法則②、運動量、力の釣り合い、ベクトル、トルク①
5. トルク②、医療におけるトルク、仕事と力学的エネルギー
6. 圧力①（気圧、水圧、浮力、血圧、サイフォン）
7. 圧力②（単位の換算、水の沸騰、オートクレーブ）
8. 熱と温度①（熱量、熱伝導）
9. 熱と温度②（水の三態変化、仕事と熱）
10. 気体の法則、酸素ボンベ、エネルギー保存の法則、熱機関
11. 音（波の性質、うなり、ドップラー効果）、超音波診断
12. 光（紫外線、赤外線、反射、屈折、スペクトル）、レーザー
13. 電気に関する法則、交流、電磁誘導、アース、医療と電気
14. 放射線の種類とその利用、放射線防護
15. 総まとめ

成績の評価

15

15

70

レポート %、宿題及び小テスト %、学期末試験 %で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ (180分) 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「系統看護学講座 基礎分野 物理学」(医学書院)

オフィスアワー

授業終了後

講義コード	1N416012
講義名	科学の基礎
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1101
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 井本 泰彦	指定なし
非常勤	山崎 尚	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

井本 泰彦 山崎 尚

目的

生物・物理・化学の各分野の基礎項目について十分な知識を持つことにより、専門科目の学習の基礎を確実なものとする。生物分野では、生物の基本構成単位である細胞の構造や機能の理解を中心に、ヒトを理解する上で必要な生命科学の基本的知識を学ぶ。物理・化学分野においては、高等学校で学ぶ重要項目の理解を深め看護活動に関係する物理現象を系統的に理解する能力と物質とその変化を化学的に理解する能力を養う。したがって高等学校で履修していない科目がある学生や、理解不足であった学生の受講を望む。

到達目標

1. 系統分類がどのようなものか理解し、生物進化との関係を説明できる。
2. 生物が細胞から構成されていることを理解し、細胞内の構造を図を使って説明できる。
3. 細胞がどのような分子から構成されているかを説明できる。
4. 動物の体内環境を一定に保つ仕組みが2つに分かれることを理解し、それぞれ簡潔に説明できる。
5. 看護に必要な物理学の基礎が理解できる。
6. 看護に必要な化学の基礎が理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／課題探究力

授業計画

1. 生物の定義、系統分類と進化
2. 細胞の構造
3. 細胞は何からできているか
4. 細胞の機能
5. 恒常性とは何か
6. 基本的な物理量と単位（質量、加速度、力、重力）
7. 力の働き（ベクトル、摩擦、仕事、モーメント）
8. 圧力（大気圧、血圧、単位、ボイルの法則、分圧）
9. 波の性質（ドップラー効果、超音波）、放射線の基礎
10. 電気（オームの法則、電力、感電、測定機器と人体）
11. 周期表と身近な元素、原子の構造、イオン
12. 分子量、式量、物質量、溶液の濃度

- 13. 化学変化と化学反応式、酸と塩基、pH
- 14. 酸化と還元、身近な無機化合物
- 15. 有機化合物（石油、油脂、炭水化物、タンパク質）

成績の評価

生物：毎授業時に課するミニツツペーパーの提出を「授業への取り組み度」とする。
物理・化学：宿題の提出を「授業への取り組み度」とする。
各分野とも評価は、定期試験70%、授業への取り組み度を30%とし、その合計で評価する。
3分野の評価の平均を講義の評価とする。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

生物：「大学でまなぶ 身近な生物学」（羊土社）
（この本は、「生命のしくみ」（山崎担当選択授業）の教科書である）

参考資料

化学：「看護に必要なやりなおし生物・化学」（照林社）
物理：「看護に必要なやりなおし数学・物理」（照林社）

オフィスアワー

授業終了後

講義コード	1N417012
講義名	統計学の基礎
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1105
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 安藤 仁朗	指定なし

目的

医療の世界では、個人的な経験に基づくのではなく、何らかの「根拠」に基づいた実践が求められます。ここで言う「根拠」とは、誰もが認める科学的に実証されたものでなければなりません。そのため、看護や保健に関する研究では多くの人を対象としたアンケート調査が実施されていますが、得られたデータを解析する方法が適切でなければ、科学的根拠に基づいた結論を導くことは出来ません。そのためには、統計学を学ぶことが必要となります。そこで、本講義では、上位科目を学ぶうえで基礎となる、基本的な統計処理の方法を学びます。

到達目標

1. 基本的な統計学の用語がわかること。
2. 基本的な統計手法に習熟すること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／課題探究力

授業計画

1. 統計とは、統計学とは
2. 量的データの集計 (1)
3. 量的データの集計 (2)
4. 量的データの集計 (3)
5. 量的データの集計 (4)
6. 量的データの集計 (5)
7. 無作為抽出と正規分布
8. 質的データの集計と検定 (1)
9. 質的データの集計と検定 (2)
10. 質的データの集計と検定 (3)
11. 平均値の差の検定 (1)
12. 平均値の差の検定 (2)
13. 二変数の関連
14. 回帰と推定 (1)
15. 回帰と推定 (2)

成績の評価

定期試験の成績 (100%) で評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示します。

自己学習

1. 前回の内容を理解していないと次回の内容を理解することが困難になります。授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。
2. 欠席した場合、必ず翌週までに内容を確認しておいて下さい。

テキスト

適宜、プリントを配布します。

参考資料

「改訂版 やさしい統計学—保健・医薬・看護・福祉関係者のために」（桐書房）

オフィスアワー

授業終了後、対応します。

講義コード	1N418012
講義名	日本国憲法（法の基礎知識）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1202
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 池田 裕明	指定なし

目的

法学の基礎的知識日本国憲法について解説することをこの講義の目的とする。しかし、何も難しいことを講義しようとするものではない。むしろ、我々の日常生活の中にいかに多くの法律関係・法律問題が存在しているかということ、伝統的な法学の体系に即した講義を行うことにより、理解してもらいたいと考えている。現実の生活を法的に理解・説明できる素養を習得しようとするものである。

形式としては、通常の講義形式で行う。内容としては、プロローグとして、六法の使い方等について解説したうえで、法の本質、法の種類、裁判制度等の、いわゆる法学の総論的な問題および日本国憲法を扱う。

到達目標

学生諸君の将来の進路に鑑み、可能な限り、医事的・時事的問題もとりあげたい。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／課題探究力

授業計画

1. プロローグ
2. 法とは何か
3. 日本国憲法 1 日本国憲法と明治憲法
4. 日本国憲法 2 国会
5. 日本国憲法 3 内閣
6. 日本国憲法 4 裁判所
7. 日本国憲法 5 基本的人権
8. 日本国憲法 6 基本的人権
9. 日本国憲法 7 基本的人権
10. 日本国憲法 8 地方自治
11. 家族と法
12. 医療と法
13. 犯罪と法
14. 労働と法
15. エピローグ

成績の評価

成績評価は、期末とミニッツペーパーおよびレポート等。
なお、詳細については、第1回目の講義において説明する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

履修上の注意

講義形式という制約から、どうしても一方的講義とならざるを得ないが、受講者とのコミュニケーションをはかるために、ミニツツペーパーを随時実施する。このミニツツペーパーでは、課題に答えてもらうと共に、受講者から質問、疑問を提起してもらうことで、それらの問題を講義にとり入れていきたいと考えている。なお、このミニツツペーパーは成績評価の際に、資料の一つとして利用する。さらに、このミニツツペーパーは出席調査の意味ももっている。

テキスト

「目で見える憲法」 (有斐閣)
「現代法学入門」 (有斐閣)
「ポケット六法 (2019年)」 (有斐閣)

参考資料

講義において紹介する

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階305研究室

講義コード	1N419012
講義名	社会学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1204
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 木村 弘之	指定なし

目的

講義では、「社会学的なもの見方」について説明していきます。感情、歩き方、子ども、家族、恋愛、結婚、食生活など具体的な事象を例に、社会的変数から焦点を当てることで、そこに意外な視点を発見していく過程を紹介していきます。

到達目標

講義で紹介する「社会学的なもの見方」について理解し、そのように捉えることのメリット、デメリットなどについて考察できるようになること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／課題探究力

授業計画

1. 社会性とは① 感情と社会の規範
2. 社会性とは② ナンパ歩行と身体の規範
3. メディアと社会① ジェンダーと性別の捉え方
4. メディアと社会② 社会統計と印象の操作
5. メディアと社会③ 社会の医療化
6. メディアと社会④ 都市伝説と世間
7. 社会階層と社会① 恋愛結婚の受入れ
8. 社会階層と社会② 恋愛結婚と結婚戦略
9. 家族と社会① 高齢化社会のはじまり
10. 家族と社会② 高齢者の役割と居場所
11. 家族と社会③ 少子化社会とスウェーデン幻想
12. 家族と社会④ 児童虐待と育児不安
13. 社会と科学① 3歳児神話について
14. 社会と科学② 母子同室制と育児の知識
15. 社会と科学③ 食育とフードファディズム

成績の評価

毎回のレポートを60%、期末のレポートを40%として評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

毎回のレポートについては、次回の講義で、解答例とレポートを開示します。
 期末のレポートについては、成績発表後、解答例とレポートを開示します。

自己学習

毎回の講義内容を、毎回のレポート等を利用して、整理しておくこと。

毎回の講義内容を応用できる具体例を、日頃の生活の中で色々と探してみることに。
授業1コマにつき、2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

特にありません。

テキスト

毎回、プリントを配布します。

参考資料

講義の中で、適宜、紹介します。

オフィスアワー

講義終了後、教室にて質問を受け付けます。

講義コード	1N420012
講義名	教育学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1206
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 北山 敏和	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

北山 敏和

目的

「教育＝学校」と狭くとらえるのではなく、私たちの社会や生活のさまざまな場面、例えば家庭や保健医療の場で行われている教育的な営みにも注目し、教育の仕組み、歴史、さまざまな教育実践の形など、教育に関する基本的なことがらについて幅広く学ぶ。

また、仕事や生活など、これからの人生のさまざまな場面で活用できる、自分自身を高め伸ばして行く力、好ましい人間関係を作ってゆく力である「行動する力(＝ライフスキル)」についての基本を理解し、活用できるようにする。

学習はグループ活動とディスカッションを基本とし、受講者がそれぞれに持つ知識、経験、情報を共有することを通して、個人の能力だけではなく集団としての能力が高まることを体験的に学ぶ。

到達目標

- 1 教育の目的や方法、基本的な制度や仕組みが分かる
- 2 人間の「能力」と「教育」の関係が分かる
- 3 発達段階とその行動特性が分かる
- 4 行動する力＝ライフスキルと健康な社会の関係について分かる
- 5 ライフスキル使って自分の生活の質と仕事の質を改善向上させることが出来る

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／課題探究力

授業計画

1. 教育学で何を学ぶか(オリエンテーション)
2. 遊びと学習：自然な学びと組織的・計画的な学び
3. 教育の仕組みと教育制度：学校とは何か
4. 教育と能力：人間の能力の多様性
5. 学力とは何か：将来の生活、仕事に必要な学力について考える
6. 考える力と行動する力：私たちの人生と行動する力＝ライフスキル
7. 発達段階と教育(1)発達段階とは何か
8. 発達段階と教育(2)子どもの発達と行動特性
9. 発達段階と教育(3)思春期／青年期の発達と行動特性
10. 現代の教育問題(1)コミュニケーションと創造的思考
11. 現代の教育問題(2)自尊感情と自信
12. 教育と地域社会：社会参画と奉仕活動

- 13. ニーズに応じた教育：特別支援教育
- 14. 教育と医療の協働：予防医学と健康教育
- 15. 健康な社会と教育：ヘルス・エンパワーメント

成績の評価

授業後のミニレポート50% 課題についてのレポート50%

毎授業後にミニレポートを提出し、授業期間の中間と終了時の2回、課題についてレポートを提出する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業終了後、①何を学習したのか ②新しく獲得した知識、情報、スキルは何か ③学習したことを自分の将来の生活や職業の場でどのように生かすか の観点で振り返り、まとめること。また次時のテーマとして示されたことについて、自分の考えを用意しておくこと。授業1コマにつき2コマ相当(180分)の予習復習をすること。

履修上の注意

講義中心ではなく、グループ活動を基本としアクティブ・ラーニングで学習を展開するため、準備、後片づけを含め司会進行、記録、発表などの役割を分担し、積極的に自分の意見、考えを発表すること。

テキスト

必要な資料は配布する。

参考資料

- 「よく分かる教育学原論」(ミネルヴァ書房)
- 「育児の国際比較—子ども社会と親たち」(日本放送出版協会)
- 「ライフスキル教育入門」(風人社)
- 「ライフスキル教育入門」(風人社)
- 「対訳21世紀に生きる君たちへ」(朝日出版社) 司馬遼太郎

研究室・授業用E-mail

質問等があれば E-mailで
heisan.kitayama@nifty.com

講義コード	1N421012
講義名	東洋医療の基礎・導入教育
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	GE-1001
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中納 美智保	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

保健看護学科 教員全員

目的

この科目では、本学科の主旨を理解し、医療人を目指す大学生としての基本的な学習スキルを学ぶことを目的とする。自己学習の方法、学びの振り返り、文献検索や検討方法、グループでの討議や学習活動、レポート作成やプレゼンテーションについての体験を通して学習スキルを学ぶ。また東洋医療の一端を知ることによって、看護専門分野の選択をする際の一助となる。これらの学びを通して、学生として主体的に学ぶとは何かを自分自身に問い、大学生活が実りの多いものとなることを期待する。

到達目標

1. 授業に臨む学習習慣を身につけることができる。
2. KAN医ラーニングを活用することができる。
3. ワークブックを活用して振り返り、課題を見出すことができる。
4. グループディスカッションに積極的に取り組むことができる。
5. チームの一員として主体的に取り組むことができる。
6. 自分の考えを他者が理解できるようにプレゼンテーションすることができる。
7. 自分の考えを他者に伝えるようにレポートにまとめることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

1. 大学での学びとは何か
2. グループワークとグループディスカッション
3. プレゼンテーションについて
4. 東洋医療の入門1
5. 文献検索の方法について
6. プレゼンテーションの実際
7. BLSの体験
8. 東洋医療の入門2
9. レポートの書き方とグループディスカッション
10. レポート発表とディスカッション
11. プレゼンテーションとディスカッション
12. グループ発表に向けてのワーク1
13. グループ発表に向けてのワーク2

14. グループ発表会 1

15. グループ発表会 2

成績の評価

グループ活動・日々の学びの記述39%、プレゼンテーション20%、レポート21%、KAN医ラーニングを活用した課題学習20%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「看護学生のためのレポートの書き方教室」（照林社）

参考資料

授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日 12:30~13:00（中納）

研究室・授業用E-mail

5号館 C708研究室・nakano@kansai.ac.jp（中納）

講義コード	1N422011
講義名	生体を構成する物質とはたらき
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護にいかす心と体のしくみ
科目ナンバリング	N1-2105
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 町谷 安紀	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

町谷 安紀（薬剤師）

目的

この科目は、生体がどのような物質でなりたち、それらの物質がどのような働きをしているかを学ぶことにより、生体の恒常性や正常なしくみと異常を理解し、看護に役立てることを目的とする。将来の看護につながる疾患の理解に関連する内容を重点的に講義を行う。

到達目標

1. 生体を構成する物質が説明できる。
2. 生体を構成する物質が生体内でどのように機能しているか説明できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

【講義内容】

第1回	第1章	生化学を学ぶための基礎知識
第2回	第2章	代謝の基礎と酵素・補酵素
第3回	第3章	糖質の構造と機能
	第4章	糖質代謝（一部）
第4回	第4章	糖質代謝
第5回	第5章	脂質の構造と機能
第6回	第6章	脂質代謝
第7回	第7章	タンパク質の構造と機能
第8回	第8章	タンパク質代謝
第9回	第9章	ポルフィリン代謝と異物代謝
	第10章	遺伝子と核酸（一部）
第10回	第10章	遺伝子と核酸
第11回	第11章	遺伝子の複製・修復・組換え
第12回	第12章	転写
第13回	第13章	翻訳と翻訳後修飾
第14回	第14章	シグナル伝達
第15回	第15章	がん

成績の評価

試験70%・毎回講義前に実施する小テスト30%

(追試験・再試験に関しては、小テストの点数を考慮せず、試験 %とする。)

自己学習

生体機能や病態の理解には欠かせない内容であるので、講義の復習 (45分) をしっかり行うこと。

履修上の注意

前期の「生命の化学」では、主に生体を構成する化合物の理解を中心とする。したがって、本科目の内容を理解するためには、「生命の化学」を履修することが望ましい。

看護師として知っておくべき内容を重点的に講義し、病態生理や薬理の講義につなげる講義を行う。毎回 (初回を除く) 講義前に前回の内容の小テストを行うので、復習をしっかり行うこと。

テキスト

「系統看護学講座 生化学 人体の構造と機能②」
(医学書院) 畠山 鎮次著

参考資料

授業内で適宜紹介する

オフィスアワー

講義前：8：30～9：00

研究室・授業用E-mail

5号館5階 講師控室

講義コード	1N423011
講義名	人間の発達
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護にいかす心と体のしくみ
科目ナンバリング	N1-2106
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 狩野 真理	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

狩野 真理〔臨床心理士・公認心理師・看護師〕

目的

人は誕生してから死に至るまで、常に絶え間なく発達し続ける存在である。これらの人間の発達を看護の視点でとらえ、それぞれの時期での発達の課題や健康問題について考える。

到達目標

1. 発達は身体面・心理面・社会面が生涯を通して変容していく過程であることを知り、発達段階と発達課題を理解する。
2. 発達の各期に生じやすい健康上の問題と必要な支援について理解する。
3. いわゆる正常発達を理解した上で、医療専門職者としての基盤を築く。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. オリエンテーション・人間の発達の関連概念
2. 発達理論ーゲゼル・フロイト・マラー・ピアジェ・ボウルビイ
3. 発達理論ーレビンソン・ハヴィガースト・エリクソン
4. 人間のライフサイクルと発達
 - ①胎児期の形態・機能的側面、心理的側面の発達および発達に関わる問題と必要な支援
5. ②ー1乳幼児期の形態・機能的側面の発達
6. ②ー2乳幼児期の心理・社会的側面の発達および健康上の問題と必要な支援
7. ②ー3発達障害
8. ③学童期の形態・機能的側面、心理・社会的側面の発達および発達に関わる健康上の問題と必要な支援
9. ④ー1思春期の形態・機能的側面および心理・社会的側面の発達
10. ④ー2思春期の発達に関わる健康上の問題と必要な支援
11. ⑤青年期の形態・機能的側面、心理・社会的側面の発達および健康上の問題と必要な支援
12. ⑥成人期の形態・機能的側面、心理・社会的側面の発達および健康上の問題と必要な支援
13. ⑦ー1老年期の形態・機能的側面、心理・社会的側面の発達
14. ⑦ー2老年期の健康上の問題と必要な支援
15. 学習のまとめ、および目標達成度の確認

成績の評価

期末試験70%・授業内小レポート30%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示します。

自己学習

テキストと配布資料による復習をしてください。

履修上の注意

講義の最後に小レポート（質問を含む）を書き、提出してもらいます。

テキスト

「看護のための人間発達学」（医学書院） 舟島なをみ
講義の資料として、適宜プリントを配布します。

参考資料

「手にとるように発達心理学がわかる本」（かんき出版）
「ナースのための心理学③パーソナリティ発達論—生涯発達と心の危機管理」（金子書房）
「よくわかる発達心理学」（ミネルヴァ書房）

オフィスアワー

木曜日 12：30～13：00

講義コード	1N424011
講義名	看護にいかす病因・病態学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護にいかす疾病の成り立ちと回復の促進
科目ナンバリング	N1-2201
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 伊藤 俊治	指定なし

目的

疾患の発生と進行についての科学を病理学という。病因病態学とは病理学そのものである。本講義では人体の正常構造・機能がどのように異常を来し、疾患が発生していくかについて、正しい知識を身につけ科学的・体系的に理解することを目的とする。

到達目標

基本的な身体の機能とその異常について科学的な説明が出来る。炎症、腫瘍、先天異常などの基本的な疾患のメカニズムを理解し説明できる。また将来の医療従事者として、疾患の診断・治療・予防について自ら習得できるような基盤を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. 病理学の基礎
2. 組織の障害と適応
3. 組織の修復と再生
4. 炎症
5. 炎症
6. 循環障害
7. 循環障害
8. 免疫系とその異常
9. 免疫系とその異常
10. 感染症
11. 腫瘍
12. 腫瘍
13. 先天異常
14. 先天異常
15. まとめ

成績の評価

試験で評価するが、必要に応じてレポートなどを課し試験評点の10%を上限に加点する場合がある。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

病理学を学ぶためには、生物学、生化学、生理学、解剖学の知識が必須である。前期に行われるこれらの講義の内容を復習・理解しておくこと。また、事前に教科書の該当部分について予習しておくことを強く推奨する。授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

系統看護学講座「病理学」（医学書院）と配付資料を使用する。

参考資料

「ロビンス基礎病理学」（廣川書店）（図書館にあります）

オフィスアワー

随時。金曜午後を除く。実験・研究で部屋にいない場合もあるので、メールで連絡することをおすすめする。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F 407研究室
itohshun@kansai.ac.jp

講義コード	1N425011
講義名	基礎看護技術論Ⅰ（共通技術）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N1-3105
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中納 美智保	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

中納美智保〔看護師〕
 松下直子〔看護師〕
 堀本知春〔看護師〕

目的

看護技術は、人を対象にした技術であることを理解したうえで実践することが重要である。この科目では、あらゆる看護実践の共通技術である対象者の安全を守る技術、コミュニケーション技術、療養環境を整える技術の3つの技術の習得を通して、看護の技術とは何か、他者への配慮とは何かを学ぶことを目的とする。

到達目標

1. スタンダードプリコーションなどの感染予防に対する知識が理解できる。
2. 看護師としての手洗いの必要性を理解し、手洗いの技術が習得できる。
3. 看護におけるコミュニケーションの特徴を理解し、コミュニケーションの基本技術が実施できる。
4. 療養環境を整える技術であるベッドメイキングの技術が習得できる。
5. 姿勢や体位を整える技術として基本的な体位変換の技術が習得できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

コミュニケーション能力／看護実践力

授業計画

1. 看護技術の定義、ケアを通じてもたらされる安楽
2. 感染の成立と予防、スタンダードプリコーション
3. 感染経路別予防策の基礎、感染拡大の防止と対応
4. 手洗いの演習
5. 看護におけるコミュニケーションについての基礎的知識
6. コミュニケーション技術の基礎的知識
7. コミュニケーション演習（ロールプレイ）
8. コミュニケーション演習の振り返り、コミュニケーションに障害がある人々への対応
9. 療養環境について
10. 環境の調整と病床の整備、安楽を保つための環境
11. 療養環境を整える技術の演習
12. 体位の基礎
13. 安楽の姿勢・体位変換
14. 体位変換の演習

15. 臥床患者のリネン交換の演習

成績の評価

定期試験80%・実技チェックを含む授業への取り組み度20%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績終了後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

1. 「基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」（医学書院）
2. 「基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」（医学書院）
3. 「看護がみえる①」（メディックメディア）

参考資料

授業の中で紹介する

オフィスアワー

月曜日 12:20~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館C708研究室・nakano@kansai.ac.jp

講義コード	1N426011
講義名	基礎看護技術論Ⅱ（日常生活援助技術）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N1-3106
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中納 美智保	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

中納美智保〔看護師〕
 松下直子〔看護師〕
 堀本知春〔看護師〕

目的

看護技術は、対象となる人々の基本的ニーズを査定し、その対象にとって安全・安楽な方法で実施することが重要である。

この科目では、体位や移動に関する技術、清潔や衣生活を整える技術、食事・栄養を整える技術、排泄を整える技術、睡眠・休息を整える技術について学修する。さらにそれらの学修を通して看護実践を支える倫理に基づいた姿勢や行動を養うことを目的とする。

到達目標

1. 清潔の衣生活を整える技術である寝衣交換・清拭・足浴・洗髪・陰部洗浄の技術が習得できる。
2. 体位や移動に関する技術である車椅子やストレッチャーでの移送技術が習得できる。
3. 排泄を整える技術に必要な基礎知識が理解できる。
4. 食事・栄養を整える技術に必要な基礎知識および援助方法が理解できる。
5. 睡眠・休息を整える技術に必要な基礎知識が理解できる。
6. 倫理に基づいた姿勢や行動について考えることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 清潔・衣生活の援助
2. 清潔・衣生活のアセスメントと援助方法1
3. 清潔の援助方法2
4. 清潔の援助技術の演習1（寝衣交換・清拭）
5. 清潔の援助技術の演習2（手浴・足浴）
6. 清潔の援助技術の演習3（洗髪）
7. 活動・運動に関する援助技術
8. 移動の援助技術の演習（車椅子・ストレッチャー）
9. 排泄の援助1
10. 排泄の援助2（尿失禁・便失禁）
11. 清潔の援助技術の演習4（陰部洗浄）
12. 食事・栄養の援助

- 13.食事・栄養の援助（嚥下障害）
- 14.総合看護技術演習
- 15.休息・睡眠の援助

成績の評価

定期試験70%・実技チェックを含む授業への取り組み度30%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

- 1.「基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」（医学書院）
- 2.「基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」（医学書院）
- 3.「看護がみえる①」（メディックメディア）

参考資料

授業中に紹介する

オフィスアワー

月曜日 12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

5号館 C708研究室・nakano@kansai.ac.jp

講義コード	1N427011
講義名	成人期の健康と看護
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N1-3301
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美輪子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

神戸美輪子〔看護師〕

目的

ライフサイクルにおける成人期の特性をふまえ、家庭や職場・地域社会で様々な役割を持つ成人期の対象者の健康と健康問題の特徴について学修する。また、健康問題を有する成人を支援する上で有用な理論とモデルについて理解する。

到達目標

1. ライフサイクルからみた成人の身体的、心理的、社会的特徴について説明できる。
2. 成人期にある人の健康問題の特徴や健康状態に応じた看護について説明できる。
3. 健康障害によって生じる反応や現象を、成人看護学で用いられる代表的な理論やモデルを用いて理解できる。
4. 成人期の特徴をとらえ、看護を提供することの意義と援助方法を考察することができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. 「成人」とは、ライフサイクルからみた成人期の特徴
2. 成人をとりまく今日の状況（家族，仕事，ライフスタイル，環境）
3. 健康と健康レベル、健康の課題とヘルスプロモーション
4. 生活習慣・生活ストレス・職業に関連する健康障害
5. 成人看護学で用いられる理論とモデル（1）
6. 成人看護学で用いられる理論とモデル（2）
7. 成人看護学で用いられる理論とモデル（3）
8. 成人看護における看護者の役割

成績の評価

試験90%，レポート10%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき、2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

講義毎に資料を配布

参考資料

看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護学概論 改訂第2版 (南江堂)
成人看護学概論 第2版 (ヌーヴェルヒロカワ)

オフィスアワー

水曜日 12:10~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階 714研究室
kanbe@kansai.ac.jp